

第 72 次印旛地区教育研究集会  
(社会科教育・中学)

主体的に学習に取り組む態度の向上を目指した学習評価の在り方  
～学びのあしあとを活用した成果と課題～

印西市立木刈中学校  
木村直人

## 1 研究主題

主体的に学習に取り組む態度の向上を目指した学習評価の在り方  
～学びのあしあとを活用した成果と課題～

## 2 主題設定の理由

### (1) 学習指導要領より

学習指導要領 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（第1章第3の1の(1)）

第1の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方(以下「見方・考え方」という。)が鍛えられていくことに留意し、生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

学習指導要領総則 第3節 教育課程の実施と学習評価

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となる。すなわち、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。

主体的に学習に取り組む態度の向上には、単元や題材のまとまりを生徒に持たせることが必要であるとされている。

学習指導要領 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（第1章第3の2の(2)）

生徒のよい点や進捗の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。と示されている。

そこで、本研究では生徒自らが単元ごとに学習のまとまりが見通せる「学びのあしあと」を活用した。そして、「学びのあしあと」の評価を繰り返すことで、生徒が学習の価値の実感や達成感を味わうことが主体的に学習に取り組む態度の向上に繋がると考え、本主題を設定した。

### (2) 印教研究主題より

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習  
～自ら課題をみだし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成をめざして～

本研究は、上記の印教研社会科研究部主題を受けて設定している。よりよい社会の実現には、主体的に社会に関わっていくことが必要である。そして、その社会の実現のためには、今まで学んで身に付けた「知識や技能」及び「思考力・判断力・表現力」を活用することが重要である。また、変化の激しい世の中に対応するためには、その世の中に対し、能動的ではなく主体的に関わることが必要であると考え、本研究を設定した。

### (3) 生徒や学校の実態から

本校は千葉県印西市の西部に位置し、開校 36 年目を迎える。全校生徒 796 名から成る大規模校である。本校が位置する学区は既存の住宅や新興住宅地、大型商業施設が多数建設されており、そのため生徒数は年々増加している。学区の人口増加が著しいため、他県出身の生徒が多い。また、以前から木刈中学校では保護者からの学校教育に高い興味や関心がある。

生徒は学力が高い生徒が多いとされ、学習に対し関心が高い傾向が見られる。また、生徒の意識調査を行った際、「社会科の学習が好き」と答えた生徒は 8 割を占めた。そのため、授業には落ち着いて臨み、課題に熱心に取り組んでいる様子が見られる。しかし、「社会科の学習が嫌い」の理由として、「単語を暗記できない」「覚えるのが苦手」という答えがあげられた。また、小テストや定期テストの結果を見ると、社会科は暗記教科とみなしている生徒が多く、授業で学んだ知識に関連性を見いだせず、それぞれ独立したものとして記憶している生徒が多く見られる。そこで、生徒に学習内容に関連性を見出すことができるようにするため、授業のまとめとして「学びのあしあと」を活用している。学習内容を大単元で考え、内容の関連性を持たせることで自分自身の学びが深まり、主体的に学習に取り組む態度が向上すると考えた。

## 3 研究の目標

授業の単元や題材のまとめりや見通しが持つことができる「学びのあしあと」を取り入れることで、主体的に学習に取り組む態度の向上がされることを実践して明らかにする。

## 4 研究の手立て

<仮説>

「学びのあしあと」を活用し、評価を繰り返すことで、主体的に学習に取り組む態度の向上がされるだろう。

この「学びのあしあと」は新学習指導要領に基づき、主体的に学習に取り組む態度の向上が図られるように、単元のまとまりが見通せるものを本校で作成し、全学年を対象に1年間行われた。次に挙げる内容で行った。

#### 【課題設定】

「1 はじめに…学習課題を意識して学習に取り組もう」

教科書で設定されている単元ごとの探究課題を基に設定した。

#### 【仮説】

「2 授業前に課題に対する知っていることや予想を書いてみよう」

単元の授業が始まる前に課題に対する生徒が知っていることや予想を記入する。これは既習内容の確認を行うためや授業に興味関心があるかを把握できると考えた。

#### 【検証】

「3 授業を学んだ課題解決のヒントをわかったことをまとめよう」

毎時間授業終了5分前に授業で設定した学習問題に対して学んだことを参考にまとめを文章で書く。まとめを書く際は単語や箇条書きではなく文章で書かせた。文章で書かせることでどのようにまとめるか、どのように表現できるかなどを考えさせ、思考力・判断力・表現力の力を養うことができると考えた。

#### 【考察】

「4 単元の学習を通して、学習課題のまとめをしよう」

1つの単元が終わった際に単元でのまとめを学習課題に対する考察を授業ごとに検証で書いたことを参考にまとめを文章で書く。これは、仮説で書いた既習内容に加えて、この学習を通して新たに知りえたことを視覚的に捉えるようにし、自分の学んだことを実感できるようにした。また、文章で書くことで、思考力・判断力・表現力を培うことができると考えた。

#### 【まとめ】

「5 わたしのまとめ黒板を作ってみよう」

単元の授業が終わった際に単元のまとまりを捉えさせる。まとめ黒板は教員が授業で書くような黒板を生徒が授業をする場合はどのような授業や黒板を書くのかということを考えて書く。どのように書くことで人に伝わるかを様々な工夫を考えて行うことを授業に対する興味関心があるかを把握できると考えた。

#### 【振り返り】

「6 学習の取り組みを振り返ろう」

単元を通し、自分は学習がどれくらいできたのかを自己評価をABCで行わせた。

学びのあしあとは単元が終わり、1週間後に提出する。また、1つの授業が終わり、その授業のまとめを書き、毎回提出する。そして、各項目にABCの評価を付けた。

5 研究実践

単元名 「日本の姿 日本の領域の特色」(地理)

(1) 目標

- ・日本の領域・排他的経済水域の範囲や国境について理解している。(知識・技能)
- ・他国と比較してなぜ日本が国土面積の割に広い領海や排他的経済水域を持つかを、地図に基づいて説明している。(思考・判断・表現)

(2) 展開

| 時配                 | 学習内容と学習活動  | 指導・支援 ○評価  | 資料                     |
|--------------------|--|--|------------------------|
| 導入<br>5分<br><br>5分 | ○日本の端にある4島を確認する。<br><br>○沖ノ鳥島が島であるかを考え、発表する。<br>〈生徒の反応〉<br>・小さすぎるから島ではない。<br>・海面から出ているから島である。                          | ・地図帳を見て、4島の位置を確認する。<br>・沖ノ鳥島の工事前の写真を見せる。   | プリント<br>地図帳<br><br>テレビ |
| 展開                 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>○学 海洋国である日本の領域の特色はどのようなものだろう</p> </div> |  |                        |
| 3分                 | ○島の定義を提示し、考え発表する。<br>「満潮時に海面から出ている自然物」   | ・島の定義をテレビに提示する。  | テレビ                    |
| 15分                | ○沖ノ鳥島が工事されている理由について個人で考える。<br>○班で意見交換をする。<br>○全体で意見交換をする<br>〈生徒の反応〉<br>・島が無くなってしまうから。<br>・島がなくなると日本の範囲無くなるから。          | ・沖ノ鳥島の工事前の写真を見せる。<br>・考えがまとまらない生徒には机間指導を行い、考える視点などのアドバイスをする。<br>・机間指導をして、ノートに書けているかを確認する。<br>・話し合いが進まない班や生徒には、適宜声をかける。 | テレビ                    |
| 10分                | ○沖ノ鳥島が工事されていることが、日本の排他的経済水域を守ることだと理解する。<br>・排他的経済水域について理解する。<br>・国ごとの領海と排他的経済水域の面積を比較する。<br>・沖ノ鳥島の排他的経済水域の面積           | ○日本の領域・排他的経済水域の範囲や国境について理解している。<br>(知識・技能)<br>○他国と比較してなぜ日本が国土面積の割に広い領海や排他的経済水域を持つかを、地図に基づいて説明している。                     |                        |

|           |  |   |      |
|-----------|--|---|------|
|           | を計算する。   | (思考・判断・表現)<br>・沖ノ鳥島の経済水域を失うことが日本にとって大きな損害だということを理解する。 |      |
| 終末<br>10分 | ○日本の領域について理解する。<br>・領土、領空、領海について理解する。<br>・領海と経済水域の面積が日本の面積の10倍以上あることを理解する。 | ・机間指導をして、プリントを穴埋めしているかを確認する。                          | プリント |
| 2分        | ○学習課題についてのまとめを行う。  | ・評価シートに学習課題についてのまとめを行う。                               | プリント |

この授業でのまとめの文章である。

生徒A

日本の領域は、領土、領海、領空の3つ。日本は領土より、排他的経済水域(EEZ)の面積の方が大きい。  
③ 日本は沖ノ鳥島があることで排他的経済水域が増えている。おあい

生徒B

日本は領域、領土、領海、領空が決められていて、  
③ 排他的経済水域(EEZ)で漁業はしななければいけない。

## 6 仮説の検証

「学びのあしあと」を活用し、評価を繰り返すことで、主体的に学習に取り組む態度の向上がされるだろう。

(1) アンケート結果の変容から(5クラス、168名)

| ○学びのあしあとで学習に主体的に取り組めましたか？   | 1学期末 | 3学期末 |
|---|------|------|
| ・はい<br><b>【理由】</b><br>・自分の仮説が合っているかワクワクした。<br>・気になったことを調べるようになった。<br>・まとめ黒板を書くためにメモを取るようになった。<br>・学びのあしあとを書くために授業を注意して聞くようになった。<br>・成績に関わるため、授業を聞くようになった。 | 65%  | 75%  |
| ・いいえ<br><b>【理由】</b><br>・提出期限に追われるようになったから。<br>・何度も同じことを書くことが大変だった。  | 35%  | 25%  |

|   |  |  |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・やろうが変わらないから。</li> <li>・やったことをまとめるだけだから高まったとは思えない。</li> <li>・まとめることが嫌いだから</li> </ul> |  |  |
|---|--|--|

|  |       |       |
|--|-------|-------|
| ○学びのあしあとを書くことで自分の考えが深まったり、考えを文章で表現する力がついたと思いますか？   | 1 学期末 | 3 学期末 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・はい</li> </ul> <b>【理由】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を一つにまとめようと考えたから</li> <li>・自分の考えをまとめられるように考えて取り組めたから</li> <li>・ノートから大切な所を抜いて文章で表現しようとしたから</li> </ul>      | 70%   | 84%   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・いいえ</li> </ul> <b>【理由】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えがあってもそれを文章に書くことができなかった</li> <li>・教科書を写しただけで、自分では文を考えられなかったから</li> <li>・書くことが多くてわからなくなったから</li> </ul> | 30%   | 16%   |

|   |       |       |
|---|-------|-------|
| ○学びのあしあとを授業内容の理解度は向上したと思いますか？   | 1 学期末 | 3 学期末 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・はい</li> </ul> <b>【理由】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段気にならないところまで調べたから。</li> <li>・もう一度まとめて書くことで理解度は高まったと思う。</li> <li>・まとめるために見直すので理解は深まった。</li> </ul> | 82%   | 92%   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・いいえ</li> </ul> <b>【理由】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出に迫われて急いでまとめたから。</li> <li>・授業中に書けずに他の授業に書いたから。</li> <li>・やってもテストの点数が上がらないから。</li> </ul>         | 18%   | 8%    |

## (2) 仮説の検証

上記のアンケート結果から学びのあしあとを活用したことで主体的に学習に取り組む態度が向上したことが分かる。理由として考えられるのが学びのあしあとを完成させるために教科書をもう一度読み込む、ノートを見直すことなど自ら学習しようとする姿勢ができたことや理解が背景にあると考えられる。その中でも、主体的に学習に取り組む態度の向上によって、自分が分からないところや不思議だと思ったことを調べる、それらがまとめ黒板の工夫などに繋がったとされる。そして、まとめ黒板は生徒ごとの個性が出た工夫が見られた。また、まとめを文章で書くことができるようになることで思考力・判断力・表現力を養うことができ、理解力が高まることで授業に対する意識の向上にも繋がったとされる。

しかし、成績が低位の生徒は学びのあしあとが完成させることが難しいため、手立てを取っ

た。まとめの文章では前時でA評価の取った生徒の文章を授業の始めにパワーポイントに映して紹介し、参考にして記述することをさせた。評価を上げようとする、少し社会に興味がある生徒は参考にして記述できたが、社会が苦手な生徒はあまり改善が見られなかった。生徒たちの学びのあしあとを互いに見合う時間を授業で取る必要があった。

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- 学びのあしあとの作成のために授業を真剣に聞くようになり、また教員が授業中に発言したことをメモに取るようになった。
- まとめ黒板を作成することで授業内容を整理できる生徒が見られた。
- まとめ黒板や単元のまとめを行う際に、教科書を読み込む、ノートを見直すことなどもう一度学ぶことで理解が深まり、授業に主体的に取り組む姿勢が見られた。
- まとめ黒板を書く際に1枚で伝わるように様々な工夫が見られた。
- 仮説を実証するために学んだ知識を活用する姿勢が見られた。
- 学びのあしあとの活用を繰り返すことで、授業内容や単元のまとめの文章が具体的に書くことができていた。
- 学びのあしあとでA評価を貰った生徒の書き方を参考にし、評価を上げようとするために互いに学び合うことが生まれた。

### (2) 課題

- △授業で設定した学習問題に則するまとめではない生徒が見られた。
- △学びのあしあとの完成に時間がかかりすぎてしまい、学びのあしあとの取り組みが行われていない。
- △まとめを書く際に教科書の文章を写してしまい、自分の文章でまとめることができていない。
- △成績が低位な生徒は文章でまとめることが苦手なため、手立てを行う必要があった。
- △仮説に対し1回も予想を書くことができない生徒に手立てが必要であった。
- △毎回の授業で集めること、評価を取ることが教師や生徒の負担となった。



主体的に学習に取り組む態度の向上を目指した学習評価の在り方

～学びのあしあとを活用した成果と課題～

# 資料編

**学びのあしあと**～主体的に学習に取り組む態度～

1、はじめに・・・ 学習課題を意識して学びに取り組もう！ 【課題設定】

『 』  
学習課題

2、授業前に、課題に対する知っていることや予想を書いてみよう！【仮説】

『 』

5、私のまとめ黒板をつくってまとめよう！ 【まとめ】

『 』

年 組 番 氏名

社会科

3、授業を学んだ課題解決のヒントとしてわかったことをまとめよう！【検証】

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_
- ④ \_\_\_\_\_
- ⑤ \_\_\_\_\_

4、単元の学習を通して、学習課題のまとめをしてみよう！ 【考察】

『 』

6、自分の学習の取り組みを見直そう！ 【振り返り】

- ①自分が知っていることで課題の仮説を立てることができた。 A・B・C
- ②学習課題を意識して授業に取り組むことができた。 A・B・C
- ③自分が立てた仮説を証明するために検証することができた。 A・B・C
- ④授業で学んだことをもとに学習課題の考察をすることができた。 A・B・C
- ⑤単元の学習内容を理解することができた。 A・B・C

点検

点検



● 「5 私のまとめ黒板をつくってまとめよう」

5 私のまとめ黒板をつくってまとめよう! 【まとめ】

① 世界地図を使い、日本の位置はどのように表せるか?  
 ・日本は、東経 $122^{\circ} \sim 154^{\circ}$  北緯 $20^{\circ} \sim 46^{\circ}$ に位置する。  
 ① 同緯度の国: スペイン、イタリア  
 ② 同経度の国: オーストラリア、パプア等がある。

② 世界の国々の時間(時刻や時差)などについて  
 ・標準時が各国にある。  
 → 標準時子午線の真上に太陽が来た時が正午。  
 → 日本の標準時子午線は、兵庫県明石市(東経 $135^{\circ}$ )  
 ・経度 $15^{\circ}$ の差で時間の時差が発生する。

③ 海洋国である日本の特徴とは?  
 ・排他的経済水域(EEZ) → 200海里  
 ・領土、領空、領海がある。  
 ・200海里 =  $370 \text{ km}$   
 $370 \times 370 \times 3.14 = 約 43 \text{ 万 km}^2$  (日本より大きい)

5 私のまとめ黒板をつくってまとめよう! 【まとめ】

日本の領域  
 領土・領海・領空

日本は 東経 $135^{\circ}$

北方領土(歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島)  
 豊富な漁業資源にめぐまれている。  
 1945年からロシア(ソ連)が不法占拠している。

排他的経済水域(EEZ)  
 沿岸国が鉱産資源の採掘や調査漁業を行える水域。

南鳥島  
 都道府県には1つずつ県庁がおかれている。(城下町や交通の要所に多い)

尖閣諸島  
 石油が採れる可能性がある。熱水鉱床が考えられる。  
 中国・台湾が領有権を主張している。

竹島  
 豊富な漁業資源にめぐまれている。  
 韓国が不法占拠している。

沖ノ鳥島

5 私のまとめ黒板をつくってまとめよう! 【まとめ】

日本

1 日本の位置  
 日本の位置はイギリスが見て北東距離約 $1000 \text{ km}$ で、オーストラリアの北にある。

2 標準時と時差  
 ・世界各地では、基準とする経線、標準時子午線がある。  
 ・標準時子午線の真上に太陽が位置するとき、正午(午後0時)として、その国の基準となる時区、標準時を定めている。

③ 領土問題  
 ・領土、領海、領空を合わせて領域という。  
 ・石油、天然ガス、鉱産資源について沿岸の国が独占的に調査したり、開発できる排他的経済水域がある

④ 領土問題  
 ・日本は島の問題は取り組んでいる。  
 竹島 → 韓国と争っている  
 尖閣諸島 → 中国と台湾と争っている  
 北方領土 → ロシアと争っている

⑤ 時差  
 ・そして時間のずれを時差という。

● 「3 授業を学んだ問題解決のヒントとしてまとめよう」

【評価A】

生徒A

日本の領域は、領土、領海、領空の3つ。日本は領土より、排他的経済水域(EEZ)水域の方が大きい。  
③ 日本は沖ノ島があることで排他的経済水域が増えている。おおい

生徒B

日本は領域、領土、領海、領空が決められていて、  
③ 排他的経済水域(EEZ)で漁業がせしめられない。

生徒C

日本の排他的経済水域は日本領土より大きい。  
③ 沖ノ島の工事にはたくさんの費用がかかっているが日本の領域を考えると賛同。

【評価B】

生徒D

③ 領土、領海(12海里=22km)、領空がある。

生徒E

③ 領土より排他的経済水域のほうが広い。

【評価C】

生徒F

③ 「排他的経済水域」という言葉を知った。

生徒G

③ 沖ノ島がすごく大事ということがわかった。

学びのあしあと 「5 私のまとめ黒板をつくってまとめよう」

●第2章 世界の諸地域「5節 南アメリカ州—開発の進展と環境問題—」

5 私のまとめ黒板をつくってまとめよう! 【まとめ】

**人々と文化** ・元々先住民がいて、インカ帝国などの高度な文明が築かれた。(インカ)

**経済の発展** ・プランテーションのために運ばれたアフリカの奴隷との混血が進んだ。  
・20世紀後半から、大規模な農業が発展し、商品作物やバイオエタノールのための砂糖や大豆の栽培が盛んに行われている。

**農業** 焼畑農業 ... 木を燃やしてできた灰を肥料として使用する農業。しかし土壌を休めると森林は再生するため、南アメリカで求められている、持続可能な開発への取り組みが行われている!

●第2章 世界の諸地域「6節 オセアニア州—強まるアジアとの結び付き—」

5 私のまとめ黒板をつくってまとめよう! 【まとめ】

④ オセアニア州では、なぜアジアとの結び付きが強くなってきたのだろうか。

① 貿易  
オセアニアは、農産物の輸出大国と呼ばれるほど輸出が盛んで、日本をはじめ多くの国々に輸出されている。

② 経済面  
1989年、APEC(アジア太平洋経済協力)の結成を主導し、アジア諸国との経済協力を進めている。またコロンビア中で、オーストラリアから鉱産資源を安定して輸入するための、直接オーストラリアで開発する日本企業もある。

③ 移民  
19世紀後半ごろに金の鉱山が発見されると中国系の移民が増加していき、そのため、アジアからの移民を制限する白豪主義が採られた。だが労働者確保のための撤廃され、アジアを中心にヨーロッパ以外の移民を積極的に受け入れた。

●第3章 中世の日本

5 私のまとめ黒板をつくってまとめよう! 【まとめ】

<鎌倉時代～室町時代>

|       |                     |       |              |       |            |
|-------|---------------------|-------|--------------|-------|------------|
| 1206年 | モンゴル帝国を形成。          | 1336年 | 南北朝時代が始まる    | 1469年 | 応仁の乱が始まる   |
| 1268年 | 北条時宗が8代執権となる。       | 1338年 | 室町幕府が開かれる    |       | 戦国時代が始まる   |
| 1274年 | 元寇                  | 1368年 | 明が建国される      |       | 下剋上の状況が広がる |
| 1279年 | 元寇                  | 1369年 | 足利義満が1代将軍となる |       |            |
| 1281年 | 元寇                  | 1392年 | 朝鮮国が建国される    |       |            |
| 1287年 | 元寇                  | 1428年 | 正長の土一揆が始まる   |       |            |
| 1297年 | 後醍醐天皇と足利尊氏による鎌倉幕府滅亡 | 1429年 | 琉球国が建国される    |       |            |
| 1333年 | 後醍醐天皇が建武新政を始める。     | 1449年 | 足利義満が1代将軍となる |       |            |

室町文化

1394年 金閣 が完成する。  
→ 1950年に焼失  
1955年に再建

1482年 銀閣 が完成する。

抽出生徒の変容(成績が低位の生徒)

●第1編 第1章「日本の姿」

① 六つ 六大陸 三大洋 六つの川

第2編 第1章「世界各地の人々の生活と環境」

① 熱帯のところは一年の大半が雨と水でおおわれている。  
仮初の生活は寒い人は自給たてがりにしていたけど最近では現

●第2章 2節「日本列島の誕生と大陸との交流」

① 日本列島は氷期がおわり出現した。  
縄文時代ではあまり農業が発達しなかりなごごとした  
動物たちをたべていた。

3節「古代国家の歩みと東アジア世界」

① 冠位十二階の制度と七条の憲法ができた。  
聖徳太子が目指している国は天皇中心の平和な国

●第2章 世界の諸地域 1節「アジア州—急速な都市の成長と発展—」

① アジアの川の下流では水田作が盛んでアジアの東部では風向きが変わるモンスーンという季節風  
があり南部や南東部では季節風のせいだして乾季と雨季がある。東南アジアでは

2節「ヨーロッパ州—国どうしの統合による変化—」

① ヨーロッパは高緯度だけど温暖でこれは西に暖流の北大西洋海流  
偏西風があるからである。大山脈の北部にはフョルドという氷の深い峡

●第3章 中世の日本 1節「武士の政権の成立」

① 武士はいまは警備員やボディーガードで地元の武士は一族や家来を従えて  
武士団を作るほどに成長していった。

抽出生徒の変容(成績が上位の生徒)

●第1編 第1章「日本の姿」

① 大陸と海洋では海洋の方が多く、北半球・南半球でその割合がちがう。世界は6つの大陸、3つの海洋、そして6つの州に分けられる。

第2編 第1章「世界各地の人々の生活と環境」

① 寒い地域(寒帯)でくらする人は自然環境に満ちてくらし、今はほとんどの人が町に定着している。

●第2章 1節「世界の古代文明と宗教のおこり」

① 100万年前〜600万年前、人類がたん生してから(猿人)、250万年前に、原人が進化し、旧石器時代をむかえた。20万年前に知能の発達した新人が出現し、新石器時代をむかえた。

2節「日本列島の誕生と大陸との交流」

① 旧石器時代は世界とほとんど変わらず、火や言葉を使える原人が暮らしていた。氷期がおわり、海面が上昇すると、日本列島が誕生した。そして日本独自の文化が生まれた。

3節「古代国家の歩みと東アジア世界」

① 天皇が弱く争いが多いため不安定な国の状態が続いた。そのため、推古天皇の摂政である聖徳太子が蘇我氏とともに、冠位十二階、十七條の憲法などを定め、天皇中心の国づくりを目指した。

●第2章 世界の諸地域 1節「アジア州—急速な都市の成長と発展—」

① アジアは面積、人口、GDPとも1位で、人口は全世界の約6割を占めている。自然環境が多様でヒマラヤ山脈やチベット高原などの世界の屋根と呼ばれる山々がある。文化も多様で、東アジアは中国の影響が強く、米や箸、漢字などの文化があり、仏教を信仰する国が見られる。この文化は華北・東南アジアに伝えた。

2節「ヨーロッパ州—国どうしの統合による変化—」

① ヨーロッパの地図を眺めると、日本より高緯度である。しかし、ヨーロッパは日本より温暖である。これは、北大西洋海流という暖流・偏西風が原因である。ヨーロッパは地中海、北海、黒海、大西洋に囲まれ、スカンジナビア半島沿岸にはフィヨルドと呼ばれる地形がある。ラテン・ケルマン・スラブの3つに分かれた言語やキリスト教などの文化がある。

3節「アフリカ州—国際的な支援から自立に向けて—」

① アフリカ州の自然は、赤道付近の大陸中央には熱帯が広がり、ココ盆地やギニア湾岸などには、熱帯雨林や草原(サバンナ)がある。北部にはサハラ砂漠が広がり、東にはナイル川が見られる。アフリカでは北部でイスラム教、南部でキリスト教が信仰されている。植民地支配された国がある。

●第3章 中世の日本 1節「武士の政権の成立」

① 平安時代(武士)は、警備員の存在として置かれ、武芸にすそられた武官や豪族が任命される。やがて豪族などで形成された(武士団)が形成される。70(10世紀)大規模な反乱をしずめた(源氏) (東日本) (奥州藤原氏) (東北) (平氏) (西) の勢力をなす。